

		【修正日】平成30年 1月31日
【大分類】施工一般	【小分類】桁橋	【作成日】平成20年 4月 1日
【Q-26】 地覆、壁高欄のひび割れ対策について、連続桁の支間、中間支点上などにおける伸縮目地、Vカット(収縮目地)の基本的な設け方はどのようにすればよいか。		

【キーワード】 地覆, 壁高欄, ひび割れ対策, 収縮目地, Vカット

【A-26】

一般的にひび割れ対策として用いられている方法を下記に示す。

- 連続桁の支間部には、適度な間隔でVカット(収縮目地)を設置する。Vカット部にクロスさせた鉄筋を配置する場合、エポキシ鉄筋等の防錆処理を行った鉄筋を用いるのがよい。

図-1 Vカット設置例(支間部)

- 連続桁の中間支点上には、伸縮目地を設置する。伸縮目地は、一般的には壁高欄部のみに設置している。(図-2参照)

図-2 伸縮目地設置例(中間支点)

なお、Vカット・伸縮目地の形状を決定する際は、各地方整備局や各県の設計要領や設計マニュアルなどに標準的な形状が記載されている場合があるため、それらを確認するのがよい。例として、高速道路会社の設計要領第二集 橋梁建設編6章5-3解説(3)に、「耐久性に影響のあるようなひび割れが発生しないよう、負曲げの影響のある中間支点上には伸縮目地を、乾燥収縮等の影響のある支間部には適度な間隔でひび割れ誘発目地を設置することを考える。」と記載されている。

また、目地を入れた箇所の下にひび割れが生じた場合は、注入材で補修する、もしくは目地部をコーティングする等の対処を行うのがよい。ひび割れ対策として、収縮補償コンクリートを使用する事例もある。

【参考文献】

設計要領第二集 橋梁建設編:東・中・西日本高速道路株式会社(平成28年8月)